

令和2年 3月13日

白老町議会
議長 松田謙吾様

総務文教常任委員会
委員長 吉谷一孝

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) スポーツ振興の現状と課題について
(2) 分科会（体育協会及びスポーツ活動団体との懇談）
- 2 調査の方法 (1) 事務調査
(2) 現地調査
- 3 調査日程 (1) 令和2年1月22日（水）事務調査
(2) 令和2年2月04日（火）事務調査・現地調査
(3) 令和2年2月17日（月）事務調査
- 4 出席委員
委員長 吉谷一孝 副委員長 佐藤雄大
委員 前田博之 委員 大淵紀夫
委員 氏家裕治 委員 小西秀延
- 5 説明のために出席した者の職・氏名
生涯学習課長 池田誠 生涯学習課主幹 川崎真也
生涯学習課主査 葉廣照美 企画課長 工藤智寿
企画課主幹 喜尾盛頭
- 6 団体からの出席者
体育協会事務局長 熊倉博幸 ほか2名
- 7 職務のために出席した者の職・氏名
議会事務局長 高橋裕明 主査 小野寺修男

8 調査結果

本委員会は、スポーツ振興の現状と課題について、担当課から説明を受けて経過、現状及び課題を把握し、屋内型体育施設の現地調査を行う所管事務調査と活動団体との懇談を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

(1) 総務文教常任委員会

【現 状】

白老町の人口が2万人を超えた昭和40年代には、町民がスポーツを通して豊かな心と健康な体づくりのため、多種多様なスポーツに取り組み、多くのアスリートや競技団体が誕生し活躍してきた。そうした中、昭和49年都市対抗野球大会で大昭和製紙北海道野球部が優勝したことで、町民のスポーツに対する関心がさらに高まり、昭和51年に「スポーツ都市」を宣言した。

これらのことから、スポーツ活動が盛んになるとともにスポーツ施設の建設や競技人口も増加し優秀なアスリートを輩出してきた。

その後の現状に至る経過としては、次のとおりである。

- ① スポーツ行政担当部署は、スポーツ課、社会教育課、生涯学習課、そして体育協会等への委託などへ移り変わった。
- ② 人口の変化とスポーツ施設の利用者数は、平成21年人口20,042人に対して利用者数は92,785人から、平成30年人口17,023人に対して80,997人と、人口3,019人減(△15%)、利用者11,788人減(△13%)となった。
- ③ スポーツ団体数は、平成22年32団体1,605人から平成30年28団体1,416人で、4団体減(△13%)、189人減(△12%)となった。
- ④ スポーツ少年団数は、平成22年15団体341人から平成30年7団体96人で、8団体減(△53%)、245人減(△72%)となった。
- ⑤ 主な体育施設7箇所は、いずれも改修工事がなく25年から30年以上を経過している。総合体育館では、平成28年度から3年間でトレーニング機器を更新したことにより利用者数が増加、はまなすスポーツセンターは全天候型運動施設であるため利用者はほぼ横ばいとなっているが、温水プール、テニスコート、野球場及び陸上競技場は、施設・設備の老朽化や団体数の減少などで利用者は減少している。

【課 題】

こうした現状の中、これまで成果を上げてきた白老町のスポーツ活動を維

持し振興を図るべきか、あるいは現状のニーズに合った事業展開に切り替えるべきかが大きな課題となる。

白老町のスポーツ振興に関する具体的課題は、次のとおりである。

- ① スポーツ人口や団体が減少する中、広域化・連合化することによる参加機会（送迎等）を確保する取り組み。
- ② 団体スポーツなどの存続が難しく、種目が減ることによる体験機会や種目選択の取り組み。
- ③ 少子化や人口減少による従来の事業展開による大会やイベントの開催が難しくなることへの取り組み。
- ④ 施設が老朽化している中で、その維持改修または廃止などの選択と活用を図る取り組み。または、それを進めるための財源確保。
- ⑤ スポーツの意義の普及や経済活動との連携、スポーツ体験・見学などへの機会提供の取り組み。

【委員会意見】

- これらスポーツ振興の現状と課題を調査した結果、本委員会では、現在の状況に至るまでの変化を踏まえ、将来への展望・取組を明確にしていくことが必要であるとの意見がまとめられた。具体的な意見としては、次のとおりである。
 - ① 人口減少などに応じた組織全体の運営管理体制の見直しを検討する必要がある。
 - ② 少子化に対応した将来に向けたスポーツ教育のあり方を検討する必要がある。
 - ③ スポーツ都市宣言のまちとしての意義・役割として町民のスポーツ力向上を図る方策を検討する必要がある。
 - ④ スポーツ施設の改修方策・計画や施設のあり方・必要性について検討する必要がある。
 - ⑤ まちづくりと連動したスポーツ振興として収益を得る合宿誘致やスポーツイベントで町民をはじめ、町外からの誘客を増やす検討が必要である。
- 課題解決に向けた第一歩として「町としての姿勢を町民に示さなければならない」との意見があった。そのためには平成17年度に策定した総合型スポーツ計画のように、スポーツ振興方針の決定、計画の策定を促す必要がある。また、計画の策定にあたって本委員会からは町民のニーズや実情、制度を調査して提案するだけでなく、計画執行・取り組みにも協力していかなければ

ならないとの考えがある。

- 町民のスポーツ力の向上は、行政だけで取り組むには限界があるため、民間活力の導入を図りながらスポーツによる経済活性化やスポーツツーリズムの推進を図ること。スポーツ活動と経済活動のどちらに重点を置くのか認識の共有化が必要である。
- 施設などの改修には、多額の財源が必要となるが、スポーツ施設だけでなく、町が他の施設との優先順位を決めた上で協議し推進していく必要がある。ただし、方針が決定し、計画等を進めていく際にも、緊急性が高い修繕（雨漏りやトイレ）等には早急に対応していく必要がある。
- このたびの所管事務調査はスポーツ振興を取り上げたが、現状と課題には、町の財政状況をはじめ、人口減少や少子高齢化が大きく影響を与えていることが明確になり、そこで活動する町民の立場や状況も鑑みて、今後、本委員会としても一過性で終わることなく調査・検証を続け、方向性や取り組みを具体的に示していくこととしたい。

(2) 総務文教分科会

総務文教分科会は、体育協会及びスポーツ活動団体との懇談を実施した。なお、その内容については、別紙「活動報告書」のとおりである。

総務文教分科会の活動報告書

令和2年 2月 5日

総務文教常任委員会

委員長 吉谷 一孝 様

総務文教分科会

主査 佐藤 雄大

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 体育協会及びスポーツ活動団体 (参加者 3名)

日程・会場	令和2年2月4日、会場：総合体育館会議室 午後1時00分～午後2時10分
懇談テーマ	スポーツ活動状況と課題、展望等について

出席委員名	主 査 佐藤 雄大、副主査 吉谷 一孝 委 員 大淵 紀夫、委 員 小西 秀延 委 員 氏家 裕治、
意見・要望事項	下記のとおり
活 動 報 告 (処理・対応含)	<p>○活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GEN キングしらおいクラブは、「いつでも、誰もが、どこでも気軽にスポーツを楽しむ」をモットーに作られた白老町の総合型地域スポーツクラブである。 大きく分けて、教室活動、サークル活動、スクール活動の三種類に分かれている。 主な活動団体は、KIDS 体操教室 41 名、Jr スポーツクラブ 9 名、卓球クラブ 14 名、フロアカーリング 16 名、Jr 陸上 14 名、ミニバスケット 19 名、ダンス教室 6 名、幼児運動広場親 8 名、子 10 名である。 ・白老町スポーツ少年団は、本部を置き、活動団体は、白老町少年野球クラブ 9 名、Shiraoi Football Club 19 名、白老空手スポーツ少年団 6 名、白老町剣道スポーツ少年団 8 名、白老緑丘バレーボール少年団 8 名、白老ソフトテニス少年団 19 名、Gen キングしらおいクラブ Jr スポーツ少年団（ミニバス 19 名、陸上 14 名、体操 20 名）である。 ・全体的に少子高齢化人口減少とともにスポーツ人口も減っている。特に、団体種目の存続が難しくなっている。例として、中学生野球では黒獅子旗大会を 16 年間開催してきたが、町内単独でチーム編成が難しい状況になっている。また、緑丘バレーボール少年団は団員数 38 名から 8 名に減少してきている。それらのことから、広域化・連合化の移行とともにクラブチーム化の傾向があり、団体種目から個人種目へ、競技種目から健康づくりへの傾向もみられる。 <p>○意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの送迎や移動困難について、団体種目が広域化していくと送迎できる親次第、親の都合で子どもの運動機会がなくなる。スクールバスや公共交通機関で参加できるようになったらよい。 ・団体種目の維持存続について、子どもの関心を高め、学校の授業や行事での団体スポーツの普及促進を図っていただきたい。 ・中学校の運動部が減少する傾向について、やりたい種目の部活動がなくなっていく。文科省では部活動は学校から地域

に移行していくことが展望として発表されており、地域での小中一貫のクラブチーム等の発足も視野に入れていただきたい。

- ・施設の老朽化や狭隘について、資金が必要なことから優先順位を見極めながら、集約化や複合的な施設になるよう計画していただきたい。老朽化については、最低でも競技に支障がでない程度に維持・管理していただきたい。少子高齢化と現代化によりトイレは洋式（ウォシュレット付）に改修を望む。

- ・理想としては、町の観光資源であるウポポイや温泉、特産品を活かして、マラソン大会のように町外からも多く来町してもらい、スポーツも観光資源として人を呼び込む機会として投資・整備していただきたい。それらのことで白老町が住む人も来る人も「健康のまち」のアピールになる。

○まとめ

- ・スポーツの現場に関わる方との懇談を通して、活動や施設の現状や課題が伝えられ、将来的にはこれまでとは違う新たなスポーツ振興の方策を見出していく必要性が感じられた。

- ・今回で得られた現状と課題を整理して、今後、継続的に白老町としての解決策を検討すべきであり、町民と行政、議会の役割をもって、取り組むべきテーマであるとの認識が深まる有意義な懇談であった。